
マタイツカ

さすらいのかえる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マタイツカ

【Nコード】

N9281A

【作者名】

さすらいのかえる

【あらすじ】

ある日、本の整理をしていたら、懐かしい字で書かれた手作りの券が本の間から落ちてきた。そこには「俺と一日デートできる券」と書かれていた。その後、起こった不思議な出来事。

『俺と一日デートできる券』？

小説を整理していたら、本の間から何かが落ちる。手に取ってみると、懐かしい字で書かれている手作りの券だった。異様に凝った作りなんだけど・・・作る所を想像すると笑えてしまふよ。あいつ、何の為にこんなの作ったのだろう？

「やっと見付けたな」

「は？」

あれ、私何してた？？

「いや、こつちの話」

あゝなにか誤摩化したな。

「いつもそうだよ、すぐ誤摩化する」

「そうか？」

「だよ」

「そつか。じゃ直しとかないとな」

「おおゝなんか素直だね」

「わるい？」

「わるい」

「おまえが素直じゃないな」

「えへへ」

彼の隣は心地よい、ずゝと何時間でも話せていられた、あゝ何て懐かしいんだろ……。

あれ、懐かしい??

「ん? どうかしたか?」

「いや、何でもないよ」

「……」

ふと感じた違和感を、忘れるように彼と話をした。久しぶりに私は声を出して笑って話して、彼も楽しそうに話を聞いてくれた。でも、どれぐらい話しただろうか、私は誤摩化すのが彼と違って下手なのだ、気付いてしまった違和感を消す事はできなかった。

「これって夢なのかな?」

「どうなんだろうね」

「無責任な!」

「責任は取りたいんだけど……」

「ごめん」

勝手に私の目から涙が流れる。

「泣くなよ」

彼が優しく頭を撫でてくれる。余計泣けるんですけど……。

「あゝ一日じゃなくて一年とか書けば良かった」

「そうだね」

「もう、好きなだけ泣いとけ」

「そうだね」

泣き止むのを放棄したよ。彼がしきりに時計を気にしている。

「時間なくなってきたかも」

「……ぎゅーってして」

力一杯抱きしめられた。

「あの、痛いんですが」

「我慢しとけ」

「うん」

抱きしめられていた力が緩む、見上げると彼がふわりと笑った。そして、彼の手で目を塞がれ……。

「んじゃな」

耳元で声が聞こる。

目をあけた時には、唇の感触が残して彼は消えていた。

気付くと私は泣きながらベットで寝ていた。

起きて、あのヘンテコな券を探す、どこにもなかった。

終わり。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9281a/>

マタイツカ

2010年12月13日01時56分発行